教育実践総合センターレポート

2023

大分大学 教育学部附属教育実践総合センター

no.43

目　　次

1　ごあいさつ 1

2　教育実践総合センター概要 2

3　教育実践総合センターの機能と取組 4

Ⅰ　教育実習や体験的な教育活動の指導 4

Ⅱ　教師育成サポート推進室事業 8

Ⅲ　研修及び調査研究支援 10

Ⅳ　附属学校園との連携・支援 12

Ⅴ　教育・研究活動 19

Ⅵ　センター刊行物 22

Ⅶ　施設活用（施設利用状況） 24

4　センター規程，紀要の編集・発行及び投稿に関する内規 26

1　ごあいさつ

2022（令和 4）年度のセンターは，徐々に対面で行える業務も増えていき，以前の活気を取り戻しつつあります。それでもオンラインや書面のみでのやりとりもありましたが，前向きに考えるならば効率的な運営ができたとも捉えております。

教師育成サポート推進室は 11 年目となり，学生が採用試験を突破することのみが目的ではなく，その先にある子どもたちの未来のために従事できる教員の育成に努めてまいりました。19年目を迎えたまなびんぐサポート事業では，学生が公立の学校で現職の先生方や子どもたちと直接関わることで，将来教育現場で活躍できる姿をより具体的にイメージできるようになる機会となっています。また，大分県や大分市の教育委員会との連携では，長期派遣研修生への助言や協議会をとおして，県内の教育に積極的に関わってまいりました。研修生の中には本学部の卒業生もおり，その成長した姿を垣間見ることができ，とても嬉しい機会でもありました。

センターの業務に携わると，教員を目指す学生が，卒業してから教育現場で子どもたちと向き合い，日々努力していることがより実感できます。また，このような若い教員をさらに育てる仕組みを作り上げている教育委員会などの組織の熱意にも触れられます。実践センターも，その一端を担う場所であるために，日々邁進していきます。これからもご支援，ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

◎ 表紙の写真は，王子キャンパス内にある「あいさつどおり」の表示です。目立つところにあるので，いつもこの表示を見ながらセンターに向かいます。「あいさつどおり」の名のとおり，附属校園に通う子どもたちは，いつも元気にあいさつをしてくれます。

大分大学教育学部附属教育実践総合センター
センター長　廣瀬 剛

大分大学　教育学部附属教育実践総合センター

2　教育実践総合センター概要

大分大学教育学部附属教育実践総合センターは，1979（昭和 54）年に教育実践研究指導センターとして開設以来（2001（平成 13）年に改称），教育実践に関する理論的・実践的研究を行うとともに，教育実践の指導力を身に付けた教員の養成を担ってきた。なかでも，大分県から派遣された現職教員を客員研究員として受け入れ実施した教育実践研究の指導は，2014（平成 26）年度まで多くの教員を育成した。1 年間の研修を終えた研修生は，大分県内の教育現場の多方面で活躍している。

2016（平成 28）年度の学部改組では，さらに体制強化を図り，教育実践，発達教育臨床の 2 部門を主たる業務とし，併せて「まなびんぐサポート」，「教師育成サポート」の抜本的な見直しを図った。なお， 2020（令和 2）年度より，専任教員の異動のため，発達教育臨床部門は休止中となっている。

現在，専任教員 3 名，非常勤講師 2 名体制で，調査研究支援，研究・広報活動，学部・大学院への参与，附属学校園との連携，県・市町教育委員会との連携等，広範囲な業務を担っている。

1　所在地

住所	〒870-0819　大分県大分市王子新町 1 番 1 号
Tel	097-543-4933
Fax	097-543-4936
URL	http://www.ed.oita-u.ac.jp/shisetsu/center/

2　構成員

<センター長>

教授　廣瀬 剛

<発達教育臨床部門>

<教育実践開発部門>

准教授	麻生 良太	
准教授	森下 覚	
准教授	清水 良彦	～2023 年 3 月
講師	前田 菜摘	2023 年 4 月～
非常勤講師	中野 正倫	
非常勤講師	加地 伸二	
事務補佐員	藤村 智菜	～2022 年 12 月
事務補佐員	小野 目依	2023 年 3 月～

3　事業の概要

【Ⅰ 教育実習や体験的な教育活動の指導】

1　教育実習の指導

・事前事後指導の企画・運営

・授業計画・実施における指導・助言

2　体験的な教育活動（教育支援実践研究Ⅰ・Ⅱ）の指導

【Ⅱ 教師育成サポート推進室事業】

1　教師育成サポート推進室主催講座

2　教員採用試験対策講座

【Ⅲ 研修及び調査研究支援】

1　研修支援

・大分市教育センターから依頼された教職員研修

2　研究及び調査研究支援

・大分県教育センター長期派遣研修生の研究支援

・大分県教育センターにおける調査・研究支援

・大分市教育センターにおける調査・研究支援

【Ⅳ 附属学校園との連携・支援】

1　附属幼稚園

2　附属小学校

3　附属中学校

4　附属特別支援学校

【Ⅴ 教育・研究活動】

1　学部への参与

2　他学部・大学院への参与状況

3　県・市町村教育委員会との連携状況

4　附属学校園との連携

5　社会貢献

6　外部資金等導入状況

【Ⅵ センター刊行物】

1　教育実践総合センター紀要

2　教育実践総合センターNews　Edu-ta!

3　教育実践総合センターレポート

4　人材バンク

【Ⅶ 施設活用（施設利用状況）】

※　発達教育臨床部門は現在休止中である。

3　教育実践総合センターの機能と取組

【Ⅰ　教育実習や体験的な教育活動の指導】

1　教育実習の指導

教育実習をより効果的に実施するために，教育実践総合センターでは，学部3年次に教育実習の事前指導・事後指導を企画している。2018（平成 30）年度からは，教育学部に改組後の学部生が実習に行っている。

2021（令和3）年度までは，これまで学部3年次の主免の教育実習が小学校と特別支援学校のみだったのが，今年度学部3年になる学生から，主免1として小学校または特別支援学校への実習，そして主免2として幼稚園または中学校に実習と，3年次後期に2回教育実習に行くことになった。なお，主免1の小学校への実習については，約4分の1の学生が公立の小学校で実習を行うこととなっている。

こうした変更の中，教育実践総合センターが担当する教育実習の事前指導・事後指導の企画・運営は初等（小学校）に特化することで，よりきめ細かい指導ができるようにしている。

なお，2022 年度については新型コロナウイルスの影響が残る中ではあるが，対面授業が再開された。

教育実習事前・事後指導では，実習先で学ぶ内容が実習校で大きく異なることのないように，各実習校の実習担当者と打ち合わせを行い，計画を立てるよう配慮を行った。その際，各実習校の実習担当者の先生方，特に附属小学校の先生方には，指導案の書き方や，実習直前の事前指導において，授業記録の取り方や授業の見方等の講義を担当していただいた。大学側においても，事前指導案を作成する時間を3コマ事前指導において確保し，各教科の先生方に指導・助言をいただく時間を取ることで，実習へ向けての準備がさらに充実する取組となった。

2022 年度	実施内容	対象・人数
	主免教育実習（初等）　事前指導	学部3年生
5月25日	オリエンテーション～教育実習の意義と心得～	145人
6月　8日	附属小学校訪問（附属小配属学生）	
6月15日	授業記録の取り方・分析について①	
6月27日	授業記録の取り方・分析について②	
6月27日	公立小学校訪問（公立小配属学生）	
7月20日	授業づくり及び学習指導案作成について	
7月20日	学習指導案作成演習(1)	
7月27日	学習指導案作成演習(2)(3)	
	主免教育実習（初等）　事後指導	
11月30日	教育実習を終えて	
12月7日	学校の現状と教師の課題	
	教職展開ゼミ　事前・事後指導	学部2年生
		145人

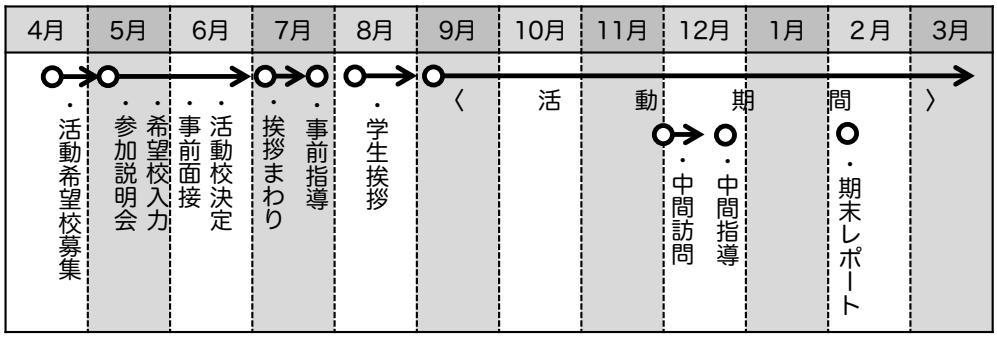
2　体験的な教育活動の指導

教育支援実践研究Ⅰ・Ⅱは，まなびんぐサポート事業への参加を単位履修の条件としている科目である。まなびんぐサポート事業は 2004（平成 16）年 3 月に開催された「大分市現職教員教育等連携推進会議」において大分市教育長と大分大学教育福祉科学部長との間で学生ボランティア派遣事業について合意したことを受け，同年 10 月から開始し，2022 年度で 19 年目を迎える取り組みである。まなびんぐサポート事業では学校現場からの支援要請に応える形で，地域の幼稚園，小学校，中学校に大学生を派遣し，授業補助や個々の子どもの学習を支援する活動を実施してきた。

まなびんぐサポート事業の目的は，教職志望学生が学校現場において教師の仕事を見る，あるいは実際に子どもを支援することで学び，自身の教育観・子ども観・授業観などを育むとともに「実践的指導力」を身につけることである。主に附属学校園で 1 ヶ月程度行う教育実習とは異なり，本事業では地域の公立校園において最長 6 ヶ月間にわたって定期的活動を行うため，長期的な子どもの変化や成長，子どもが抱える気持ちや考え，課題などを理解する姿勢を学ぶことができる。また，授業中の学習支援や休み時間に子どもと交流することでその成長を促すための学習指導のあり方，生徒指導のあり方を体験的に学ぶことができる。以上のように本事業を通して，参加学生は教育実習での学びを補完する形で「実践的指導力」を身につけることが期待されている。

2022 年度は，履修説明会・事前面接・事前指導の対面指導を再開するとともに，参加学生の体調管理の徹底，感染症対策に関する指導等の新型コロナウィルス感染症対策を講じた上での事業実施となった。

●2022 年度まなびんぐサポート事業実施スケジュール



●2022 年度まなびんぐサポート事業参加者数・派遣校数

2022 年度は 15 名（3 年生 11 名, 4 年生 4 名）がまなびんぐサポート事業に参加した。以下に 2022 年度まなびんぐサポート事業活動校一覧（サポート内容・派遣人数）を示す。

No.	学校園名	校長名	サポート内容	派遣人数
1	長浜小	天野 文代	・学習支援（授業時の学習補助） ・遠足等の野外体験活動における補助 ・運動会の練習支援	1
2	大道小	後藤 哲郎	・授業中の児童への学習支援 ・教材等作成補助 ・運動会や遠足，校外学習時の引率支援 ・放課後タイムでの補充学習 ・休み時間，給食，清掃時における活動支援	3
3	森岡小	牧 英治郎	・特別支援学級の支援	2
4	三佐小	衛藤 俊明	・プリントの添削や丸付け ・理解が遅れている児童への学習支援 ・児童との交流	1
5	賀来小	生野 京子	・１～３学年の授業の見守り支援 ・宿題チェック ・教材準備補助	1
6	敷戸小	田中 和久	・朝や帰りの時間などの児童支援 ・各教科における教育活動の支援 ・各教科の準備や教室環境等の支援	2
7	鴛野小	園田 貴史	・教育活動全般における児童への教育支援	3
8	寒田小	平塚 智啓	・授業における個別支援と給食準備・清掃活動中の支援（第１，２，４学年）	1
9	竹中中	進 麻美	・生徒の日常活動のサポート ・授業補助，給食・清掃指導，昼休みの見回り	1

○参加学生事後アンケート（2022 年 12 月～2023 年 1 月に実施　12 名が回答）

①まなびんぐサポートを通した教職志望の変化

【非常に強くなった】33%（4 名），【やや強くなった】67%（8 名）という回答であった。

・通常学級の児童と関わる中で，伝えることの難しさを改めて実感した。しかし，児童の頑張る姿や笑顔を見ることが楽しく，もっと長い時間一緒に過ごす中で成長を見守りたいという考えが強くなったため。
・実習とは違った雰囲気の中で別の角度から学校現場を見ることができ，実習では経験できなかったことも経験できたり他の先生方と関わったりして，「小学校で働くって良いな！」という気持ちが強くなったから。

②まなびんぐサポートを通した学校現場（クラス全体）への貢献

【貢献できた】と回答した学生の割合は 83%（12 名中 10 名）であった。

・子どもたちが「先生が来るとより元気になれる」といった発言をしてもらって，とても嬉しい気持ちになったと同時に，子どもたちの元気を与えることが出来たのなら貢献出来ているのではないかと考えました。
・外国人児童の支援をする中で，子どもたちよりは少しだけ英語がわかるので，子どもたち同士がコミュニケーションをとる手助けができたと思うから。
・児童の机間指導の際には，子どもたちがどこでつまづいているのかを一緒に考えることで内容の理解に少しは貢献できたのではないかと考える。

○活動校事後アンケート（2022 年 12 月～2023 年 1 月に実施　9 校 9 名が回答）

①まなびんぐサポートの満足度

【非常に満足している】78%（7 名），【満足している】22%（2 名）という回答であった。

・教職員の補助として積極的に取り組んでくれている。教職を目ざしているので，意識が高い。子どもたちとたくさん交流し，クラスや学級に活気を与えてくれている。
・2 名とも特別支援教育に高い関心を持っており，特性のある子どもたちに丁寧に接することができた。支援学級だけでなく普通学級にも積極的に入り子どもたちを支援してくれた。
・担当教員の指示に従い，児童支援や丸付け等を丁寧に行っている。放課後も，校内研修に参加したり，学年部の手伝いや職員と会話したりと，多くのことを吸収する姿がみられる。

②まなびんぐサポートの受入継続希望

【強く希望する】56%（5 名），【希望する】44%（4 名）という回答であった。

・児童にとって，まなびんぐサポートの学生と話したり遊んだりすることは有効的。教職員にとって，今後もサポートが必要な学級が予想されるため。まなびんぐサポートの学生にとって，教育実習とは違い，多くの学級で教員としての対応の仕方を学ぶことができる。
・授業時間内の支援だけでなく，児童と積極的にかかわったり日頃行き届かない部分の清掃・作業など，サポートをしてくれたため
・職員のサポートや子どもたちのサポートのために，人員が必要であることと，子どもたちに年齢の近い方 が来てくれることで，子どもたちが更に元気になり，学校全体が活気づくから。

【Ⅱ　教師育成サポート推進室事業】

教師育成サポート推進室は，教育実践総合センター長及び 3 名のセンター教員（麻生，清水，森下）で構成されている。学部 3 年～大学院生の学生を対象にし，理想の教師像をイメージし具体化するまでのプロセスを支援する「教サポ室主催講座」と，教員採用試験の個別ニーズに対応した指導を行う「教サポ室教員採用試験個別対策」を展開している。2022 年度の参加登録学生数は 239 名であった。

参加登録学生数

学年	M2	M1	4 年	3 年	2 年	合計
人数	2	5	126	106	0	239

1　教師育成サポート推進室主催講座

教サポ室主催講座の延べ参加人数は 437 名であった。教サポ通信では，教員採用試験受験者を対象にして，学生のニーズに沿った講座をオンライン（zoom）で配信した。教サポ講座では教員採用試験を終えた 4 年生から教採対策のコツを教わる講座や，教員採用試験対策の導入となる春の教サポ講座を対面で開講した。

教師育成サポート推進室主催講座

日時	教採対策	参加教員	参加人数
6 月 30 日 4 限	教サポ通信（オンライン） 模擬授業，面接対策　実践編	森下 覚，麻生 良太 清水 良彦	52
7 月 27 日 4 限	教サポ通信（オンライン） 個人面接直前対策	森下 覚 清水 良彦	65
8 月 30 日 4 限	教サポ通信（オンライン） 個人面接対策（大分県 3 次試験）	森下 覚 清水 良彦	28
11 月 8 日 6 限 @100	教師力育成講座（全学年対象） ロイロノートのいろいろ	麻生 良太	11
11 月 22 日 6 限 @303	教師力育成講座（全学年対象） 若手教師から学ぶ教師生活のいろいろ	麻生 良太	12
12 月 6 日 6 限 @303	教師力育成講座（全学年対象） 学級経営のいろいろ	麻生 良太	18
12 月 7 日 6 限 zoom	先輩の教採体験談を聞く講座 （3 年生 県外小学校受験者対象）	森下 覚 清水 良彦	2
12 月 20 日 6 限 @303	教師力育成講座（全学年対象） 保護者対応のいろいろ	麻生 良太	15
12 月 16 日 6 限 zoom	先輩の教採体験談を聞く講座 （3 年生 大分県小学校受験者対象）	森下 覚 清水 良彦	4
12 月 21 日 6 限 zoom	先輩の教採体験談を聞く講座 （3 年生 中高特受験者対象）	森下 覚 清水 良彦	1
3 月 13 日 2 限 @100	春の教サポ講座① 教採対策イロハ	森下 覚 清水 良彦	48
3 月 14 日 2 限 @第 2 大講義室	春の教サポ講座② 模擬授業等対策（1）	森下 覚 清水 良彦	51
3 月 15 日 3 限 @100	春の教サポ講座③ 模擬授業等対策（2）	森下 覚 清水 良彦	52
3 月 20 日 3 限 @100	春の教サポ講座④ 願書作成対策	森下 覚 清水 良彦	47
3 月 22 日 2 限 @第 2 大講義室	春の教サポ講座⑤ 面接対策	森下 覚 清水 良彦	31
		合計	**437**

2　教師育成サポート推進室教員採用試験個別対策

教サポ室教員採用試験個別対策の延べ参加人数は628名であった。個別対策は，教師育成サポート推進室の委員（森下，麻生，清水）3名に，非常勤講師の中野・加地2名を加えた計5名で，模擬授業対策・場面指導，集団討論・グループワーク対策，論作文指導，願書添削，面接指導を実施した。

教師育成サポート推進室教員採用試験個別対策

	模擬授業 場面指導	集団討論 グループワーク	論作文指導	願書添削	面接指導	合計
4月	61	17	2	7	30	117
5月	58	17	4	6	21	106
6月	70	14	7	13	21	125
7月	56	15	7	14	28	120
8月	25	13	1	21	44	104
9月	0	0	0	4	52	56
合計	270	76	21	65	196	628

先輩の教採体験談を聞く講座の様子

模擬授業対策の様子

【Ⅲ　研修及び調査研究支援】

1　研修支援

(1)　大分市教育センターから依頼された教職員研修

月　日	実施内容	大学教員名
5 月 13 日	5 年目研修	藤田 敦
6 月 10 日	臨時講師研修	藤田 敦

2　研究及び調査研究支援

(1)　大分県教育センター長期派遣研修生の研究支援

教育実践総合センターでは，大分県教育センターと連携し，大分県教育センターに長期派遣研修生として 1 年間配属される教員に対し，研究への指導・助言を行っている。長期派遣研修とは，大分県教育の振興と教員の専門的資質の向上に資することを目的とし，公立学校の教諭等が，実践的研修を行うものとされる。教育実践総合センターからの指導・助言の内容は，研究の進め方（先行研究をふまえて自身の研究のオリジナリティをどう設定するか，仮説をどのように立てるか），データの取り方，分析の仕方，論文の書き方（引用参考文献の示し方）等であった。

月　日	実施内容	大学教員名
9 月 14 日	中間報告指導	廣瀬 剛，麻生 良太，森下 覚，清水 良彦
2 月 21 日	研修成果発表会指導	

研修生	研究テーマ
宮川 祐美子	「正確に読み取る力」を育むリーディング指導の在り方 ― 自己調整学習のサイクルに着目した指導の工夫 ―
波多野 美代子	小学校における「プログラミング的思考」の育成

(2)　大分県教育センターにおける調査・研究支援

実施内容	大学教員名
学年間・学校種間の連携を図るキャリア教育の実践に関する調査研究	長谷川 祐介
異動後の困難に関する調査研究～採用後，初めての異動に着目して～	森下 覚
小・中学校通級指導教室における指導の実態と課題に関する調査研究	古長 治基
高校における短時間で継続的に行う「人間関係づくりプログラム」の効果的な活用に関する調査研究	藤田 敦
ICT 端末の有効活用に関する調査研究－ICT 端末を有効活用できる「教員操作スキル」および「端末スペック」の調査研究－	市原 靖士

(3) 大分市教育センターにおける調査・研究支援

教育実践総合センターは，大分市教育センターと共に作業部会，専門部会，大分市現職教員教育等連携推進協議会を開催し，現職教員の資質向上を図る研修プログラムの開発・充実を目的とした協議を進めている。2022 年度の研究テーマは「学生及び教員の資質向上を図る『人材育成』の在り方～各学校の OJT に係る調査・研究を通して～（1 年目）」であった。教育実践総合センターからの研究支援の内容は，特徴的な OJT の事例選定の助言，調査・研究の情報発信の助言であった。

月　日	実施内容
5 月 20 日	第 1 回作業部会：人材育成を推進する OJT，まなびんぐサポートについて
7 月 15 日	第 1 回専門部会：連携の取り組みについての確認，作業部会の報告
11 月 15 日	第 2 回作業部会：人材育成を推進する OJT，まなびんぐサポートについて
12 月 16 日	第 2 回専門部会：連携の取り組みについての中間報告，作業部会の報告，連携推進協議会の議題等の検討
2 月 6 日	大分市現職教員教育等連携推進協議会
3 月 23 日	第 3 回作業部会：人材育成を推進する OJT，まなびんぐサポートについて

【Ⅳ　附属学校園との連携・支援】

1　附属幼稚園

1　教育目標
　主体的に生きる子どもの育成
2　研究テーマ
　『遊びや生活の中で深く学ぶ子どもを育む』
　～「感じる」・「膨らむ」・「広がる」数の世界を支える保育～
3　研究内容
①「数量・図形」の関心・感覚を育む環境の構成と援助を探り，「遊びを大切にする幼児教育」の事例を提示する。
②大学の先生から指導・助言を受け，「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえたモデルカリキュラムの作成及び実践事例を提示する。

本園は，教師一人一人が日々の保育を見つめ，園の教育目標の共通理解のもと，自己課題をもって研究に取り組むことが，保育力の向上とともに，質の高い保育につながると考え，実践に取り組んでいます。

昨年度は，子どもたちの遊びや生活の中であふれている数量や図形等をひとまとめに捉え「数の世界」と表しました。「数の世界」にかかわりのある３年齢に共通した様々な活動の考察から，「感じる」から「広がる」といった関心や感覚が育まれていく過程を探ってきました。中でも積み木や折り紙のように数量・図形を追っていきやすいものに対し，一見するとそれらが分かりにくい砂場遊びにおいても，子どもたちは様々な数の世界にふれて遊んでいること，数の世界には様々な面があることなど分かりました。

子どもたちは興味や関心から発した直接的で具体的な体験から多くのことを学び，様々な力を獲得していきます。今年度研究を進めていくにあたって，子どもの姿から「数の世界」にかかわる姿に着目し，さらに数の世界にかかわり，深く学ぶ子どもを支える環境の構成と援助を探ろうと，『遊びや生活の中で深く学ぶ子どもを育む～「感じる」・「膨らむ」・「広がる」数の世界を支える保育～』というテーマを設定しました。大学教員のサポートも得ながら全員で課題解決に取り組み，保育力の更なる向上と質の高い保育の実践をめざしています。

＜大学―附属幼稚園との連携の実際＞

月　日	内容・成果等	大学教員名
毎週木曜日	園内研究への指導・助言	永田 誠
毎週木曜日	園内研究への指導・助言	向井 隆久
8 月 23 日	幼児の数的概念についての講話	川嵜 道広
1 月 19 日	保育研究協議会　運営準備，助言	永田 誠
1 月 19 日	保育研究協議会　運営準備，助言	向井 隆久
1 月 27 日	保育研究協議会　運営準備，助言	永田 誠
1 月 27 日	保育研究協議会　運営準備，助言	向井 隆久
1 月 28 日	保育研究協議会　運営準備，助言	永田 誠
1 月 28 日	保育研究協議会　運営準備，助言	向井 隆久
1 月 28 日	保育研究協議会　助言	麻生 良太

2　附属小学校

1　教育目標

グローカルリーダー（Think globally, act locally）の育成

~未来へ向かって高い志を持ち，人や社会と豊かに関わり，自己を磨き高め合う子どもの育成~

2　研究テーマ

知識・技能を活用し，熟考する子どもの育成 ~1 人 1 台端末の活用を通して~

3　研究内容・研究方法

1）重点目標：　豊かなコミュニケーション活動の土台を育む人間関係の醸成

達成指標：　「自己・他者肯定感テスト」において，「自己・他者肯定群」に位置する児童が全体の 84%以上

重点的取組：　4 つの取組のブラッシュアップ及び相互に関連付けた取り組み

①フリートーク

②ほめ言葉のシャワー

③成長ノート

④価値語

2）重点目標：　県による「各教科の改善の重点」を具現化した各教科の授業の構築と授業公開

達成指標：　①令和 4 年度小中学校教育課程研究協議会（12 月）にて，レポート提出及び本校作成の単元及び授業プランを，授業公開等を通じて発信

②指導教諭等による評価の平均が 3.0 以上

重点的取組：　①県による「各教科の改善の重点」の分析，また本校の課題及び具体的な取組を明確にし，それを具現化した授業づくりと授業公開を行う

②指導教諭等による授業参観及び，指導教諭等による指導・助言をもとに授業改善を行う。

3）重点目標：　積極的に英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする児童を育む授業の推進

達成指標：　①指導教諭による評価（4 段階）が，1・2 年目の教諭 2.7 以上，3 年目以上の教諭 3.0 以上

②授業参観後のアンケートで，参観者の自校での活用率が 6 割以上

重点的取組：　①課題解決へ向けた授業づくり・互見授業の実施

②公立校への授業公開

4）重点目標：　附属小学校のめざす生活科・総合的な学習の時間の資質・能力の達成

達成指標：　前期：「めざす資質・能力」を意識した授業の実施（通知表の評価と連動），児童アンケートで肯定的な回答 80%以上（R3 年度達成指標 75%）

後期：前期の分析をもとに「めざす資質・能力」を意識した授業の実施，児童アンケートで「整理・分析」場面で肯定的な回答 85%以上

重点的取組：　①学級ごとに探究のサイクルを意識した単元計画（プラン）と評価規準の作成・実施

②思考ツール辞典への実践事例の追加

③附属小学校のめざす生活科・総合的な学習の時間の資質・能力の外部への発信

④提案授業・互見授業の実施（一人一回以上） ⑤「めざす資質・能力」の達成が見取れる児童アンケートの作成，検討，実施，分析（アンケート実施は６月と２月，３年生以上全学級）

＜大学―附属小学校との連携の実際＞

月　日	実施内容	大学教員名
4 月 4 日	体育科における ICT 活用の効果に関する研究協議	森下 覚
4 月 25 日	教育実習　第１回打ち合わせ	三次 徳二
5 月 9 日	教育実習日程調整	三次 徳二
5 月 13 日	算数科指導案審議	川嵜 道広，中川 裕之
5 月 13 日	5 月 31 日道徳科授業の指導案審議	黒川 勲，吉野 敦
5 月 16 日	教育実習全体計画確認	三次 徳二
5 月 25 日	教育実習確認	三次 徳二
5 月 27 日	教育実習　第２回打ち合わせ	三次 徳二
5 月 31 日	道徳科の授業参観と事後研参加	黒川 勲，吉野 敦
6 月 17 日	算数科研究授業事後研	川嵜 道広，中川 裕之
6 月 20 日	教育実習確認	三次 徳二
6 月 22 日	教育実習確認	三次 徳二
6 月 27 日	教育実習　事前観察実習（引率）	三次 徳二，都甲 由紀子
6 月 28 日	教育実習　事前観察実習（引率）	三次 徳二，都甲 由紀子
6 月 29 日	教育実習確認	三次 徳二
6 月 30 日	教育実習　事前観察実習（引率）	三次 徳二，都甲 由紀子
6 月 30 日	5 月 31 日道徳科授業の振り返り 九附連道徳部会大分大会打ち合わせ	黒川 勲，吉野 敦
6 月 30 日	学級活動⑵食育に関する授業参観と指導・助言	長谷川 祐介
7 月 1 日	教育実習　事前観察実習（引率）	三次 徳二，都甲 由紀子
7 月 20 日	教育実習　事前指導 （授業づくり・指導案作成）	三次 徳二，麻生 良太
7 月 21 日	九附連道徳部会大分大会打ち合わせ	黒川 勲，吉野 敦
8 月 5 日	九附連道徳部会大分大会参加	黒川 勲，吉野 敦
9 月本実習前半	教育実習　事前観察実習（引率）	三次 徳二，都甲 由紀子
10 月 20 日	算数科指導案審議	川嵜 道広，中川 裕之
10 月本実習後半	教育実習　事前観察実習（引率）	三次 徳二，都甲 由紀子
10 月 19 日	九附連道徳部会大分大会振り返り	黒川 勲，吉野 敦
12 月 1 日	板書指導演習	三次 徳二
2 月 6 日	学力調査とアセスアンケートの分析結果	麻生 良太
2 月 16 日	2 月 21 日道徳科授業の指導案審議	黒川 勲，吉野 敦
2 月 21 日	道徳科の授業参観	黒川 勲，吉野 敦
3 月 2 日	算数授業についての討論会	川嵜 道広，中川 裕之
3 月 10 日	2 月 21 日道徳科授業の振り返り	黒川 勲，吉野 敦

3　附属中学校

1　教育目標

自主自律の精神の下，高い学力・深い愛の心・堪え忍ぶ力を兼ね備えた気品ある附中生の育成を目指す

2　研究テーマ

学ぶ意義を考え，学びに向かう力を育む授業改善 ~生徒と共につくる新しい学び~

3　研究内容

ICT を積極的に活用し，個別最適化された学びと協働的な学びのある授業実践を蓄積する。

⇒授業にとどまらず学校生活のあらゆる場面における ICT の活用の推進

⇒生徒会活動の積極的な ICT 活用の支援

⇒ HP 未来を創る「附中×GIGA」による実践の発信

【研究推進の 3 つの柱】

① 学ぶ意義を考え，見出させる授業力向上

ア，主体的な学びにつながる学習記録の活用

「何ができるようになったか」という変容を捉え，「その変容をどう検証するか」を協議する

振り返りをもとに自らの学ぶ意義を見出し，将来に目を向けるように支援する

主体的に学ぶ態度について「調整力」の看取り方を検証する

イ，「問い」の工夫のある授業

子どもが頭を働かせるよう促す仕掛け「問い」を授業に位置づける

新大分スタンダードと関連づけて理論研究を行う

単元計画に位置づける

② 主体的・対話的で深い学びを豊かにする ICT の効果的な活用

ア，これまでの学びの良さの上に立った ICT 実践の推進

「トライ&エラー」を基本スタイルとして事例を蓄積し，その実践を公開する

ICT 活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の広がりの効果を検証する

イ，教科を超えて活用する学び方の共有と実践・検証の提案

ICT 端末の操作方法など目的に合わせて自ら判断できるように促す【③アとの関連】

③ 先に進んだ「共に創る授業」の推進 「附中×GIGA」=附中版 GIGA スクール構想

ア，「附中×GIGA」の推進と ICT スクールサポーターズの組織的な運用 ICT 活用で育む自主性を「個別最適な学び」につなぐ。

学びの環境づくり（学習道具としての ICT/娯楽の道具から脱却）を生徒の言葉で発信する子どもたちが場面によって判断ができるようになる集団の基盤づくり

イ，資質・能力（情報活用能力）の設定と共有

情報モラル学習

＜大学―附属中学校との連携の実際＞

月　日	実施内容	大学教員名
4 月 27 日	授業の指導助言　式の計算の利用 ・生徒 40 名で実施	川嵜 道広
4 月 27 日	授業の指導助言　式の計算の利用 ・生徒 40 名で実施	中川 裕之
4 月 27 日	指導案の指導助言 ・附中職員 3 名と実施	川嵜 道広
4 月 27 日	指導案の指導助言 ・附中職員 3 名と実施	中川 裕之
5 月 13 日	授業研究と短期プロジェクト ・附小中職員 4 名と実施	黒川 勲
5 月 13 日	授業研究と短期プロジェクト ・附小中職員 4 名と実施	吉野 敦
5 月 26 日	実習生の代表授業への指導助言	田中 修二，藤井 康子 村上 佑介
5 月 31 日	授業研究と短期プロジェクト ・附小中職員 4 名と実施	黒川 勲
5 月 31 日	授業研究と短期プロジェクト ・附小中職員 4 名と実施	吉野 敦
6 月 14 日	指導案の指導助言 ・附中職員 3 名と実施	川嵜 道広
6 月 14 日	指導案の指導助言 ・附中職員 3 名と実施	中川 裕之
6 月 30 日	授業研究と短期プロジェクト ・附小中職員 4 名と実施	黒川 勲
6 月 30 日	授業研究と短期プロジェクト ・附小中職員 4 名と実施	吉野 敦
7 月 7 日	授業の指導助言　Web ページの作成 ・生徒 40 名で実施	市原 靖士
7 月 7 日	授業の指導助言　話すこと「やりとり」 ・生徒 40 名で実施	御手洗 靖
7 月 7 日	授業の指導助言　化学変化と原子・分子 ・生徒 40 名で実施	三次 徳二
7 月 8 日	授業の指導助言　四分位範囲と箱ひげ図 ・生徒 40 名で実施	川嵜 道広
7 月 8 日	授業の指導助言　四分位範囲と箱ひげ図 ・生徒 40 名で実施	中川 裕之
7 月 8 日	授業の指導助言　鑑賞 ・生徒 40 名で実施	田中 修二，藤井 康子
7 月 8 日	授業の指導助言　「効率」と「公正」 ・生徒 40 名で実施	甘利 弘樹
7 月 21 日	授業研究と短期プロジェクト ・附小中職員 4 名と実施	黒川 勲
7 月 21 日	授業研究と短期プロジェクト ・附小中職員 4 名と実施	吉野 敦
8 月 1 日	公開研究発表会の分析 ・附中職員 3 名と実施	川嵜 道広

月　日	実施内容	大学教員名
8 月 1 日	公開研究発表会の分析 ・附中職員３名と実施	中川 裕之
8 月 4 日	授業研究と短期プロジェクト ・附小中職員４名と実施	黒川 勲
8 月 4 日	授業研究と短期プロジェクト ・附小中職員４名と実施	吉野 敦
8 月 5 日	授業研究と短期プロジェクト ・附小中職員４名と実施	黒川 勲
8 月 5 日	授業研究と短期プロジェクト ・附小中職員４名と実施	吉野 敦
9 月 7 日	授業の指導助言　北海道・東北地方 ・生徒 40 名で実施	土谷 晴洋
10 月 5 日	美術科の教材開発（短期プロジェクト）	廣瀬 剛，藤井 康子
10 月 7 日	指導案の指導助言 ・附中職員３名と実施	川嵜 道広
10 月 7 日	指導案の指導助言 ・附中職員３名と実施	中川 裕之
10 月 28 日	実習生の代表授業への指導助言	田中 修二，廣瀬 剛 藤井 康子，村上 佑介
11 月 10 日	校内授業研究会の分析 ・附中職員３名と実施	川嵜 道広
11 月 10 日	校内授業研究会の分析 ・附中職員３名と実施	中川 裕之
11 月 19 日	授業研究と短期プロジェクト ・附小中職員４名と実施	黒川 勲
11 月 19 日	授業研究と短期プロジェクト ・附小中職員４名と実施	吉野 敦
11 月 30 日	「話すこと・聞くこと」の授業開発（全３時間）1 学年の全クラスで実施。その内，１時間はフリーリポーターを外部講師に招いてのインタビューの実践。実用的な言語技術についてのポイントが明らかになった。	花坂 歩
12 月 15 日	評価についての指導助言 ・附中職員３名と実施	川嵜 道広
12 月 15 日	評価についての指導助言 ・附中職員３名と実施	中川 裕之
12 月 21 日	美術科の教材開発（短期プロジェクト）	田中 修二，廣瀬 剛 藤井 康子
2 月 7 日	美術科の教材開発（短期プロジェクト）	田中 修二，廣瀬 剛 藤井 康子

4　附属特別支援学校

1　教育目標

豊かに人や社会と交わり，自ら進んで取り組み，自己表現できる子どもの育成

2　研究テーマ

目的をもち，自ら可能性を発揮する子どもたちを求めて

3　研究内容

a）附属特別支援学校において特別支援教育課と協働で行う「特別支援教育担当教員研修」の効果的な実施

○6 月 9 日，7 月 25 日～28 日の計 5 日間で，「授業観察の仕方」「授業記録の取り方」「自立活動の考え方と実践例」「実態表の作成方法」「めあての設定方法」「ティームティーチングによる授業」「指導案作成」「研究授業」「授業事後研究会」等の実習及び演習を行う。

b）附属特別支援学校における取組と県立特別支援学校における実践に関する情報共有等

○指導力向上の取組に参加し，県立学校の主幹教諭や研究主任との情報共有を行い，本校のカリキュラム・マネジメントや指導力向上の改善に資する。

c）附属特別支援学校における取組を公開・普及する方策の検討（例：県の指導力・授業力の向上の取組に沿った本校の実践をＨＰ等で紹介）

○『U-note』を使った授業構想や授業評価・改善（Ｒ研：授業後の振り返り研修）を行い，授業実践の内容などをまとめた生産物をＨＰにアップロードする。

○学習指導要領を具体的に位置づけた学習指導案を伴う特定授業研究会を実施し，本校の考え方と実践例を県内の特別支援学校へ紹介する。

＜大学―附属特別支援学校との連携の実際＞

月　日	実施内容	大学教員名
7 月 25 日	特定授業研究会の事前指導	佐藤 晋治
6 月 27 日	特定授業研究会の事前指導	古長 治基
9 月 16 日	特定授業研究会の指導助言	佐藤 晋治
9 月 16 日	特定授業研究会の指導助言	古長 治基
2 月 16 日	九附連教頭会（大分大会）講師	佐藤 晋治

【V　教育・研究活動】

1　学部への参与

項目	内容	担当教員
教育実習関係	教育実習事前・事後指導の企画・運営	麻生 良太
各種委員会	教育実践総合センター運営委員会委員	廣瀬 剛（委員長） 麻生 良太 森下 覚 清水 良彦
	教師育成サポート推進室運営委員	廣瀬 剛（室長） 森下 覚 麻生 良太 清水 良彦
	まなびんぐサポート事業運営委員	廣瀬 剛（委員長） 清水 良彦 麻生 良太 森下 覚
	教育実習委員会	麻生 良太 森下 覚 清水 良彦
	人事運営協議会委員	清水 良彦
	企画委員会委員	廣瀬 剛
担当授業科目	教師学	麻生 良太 中野 正倫 加地 伸二
	教育支援実践研究Ⅰ・Ⅱ	清水 良彦 森下 覚 麻生 良太
	人権教育論	森下 覚
	生活（小）	麻生 良太
	小学校授業論	麻生 良太
	発達と教育の心理学Ⅰ	麻生 良太
	発達と教育の心理学Ⅱ	麻生 良太
	教育実習事前事後指導	麻生 良太
	教職展開ゼミ事前指導・事後指導	清水 良彦

2　他学部・大学院への参与状況

項目	内容	担当教員
担当授業科目	福祉健康科学部：発達と学習の心理学Ⅰ	麻生 良太
	福祉健康科学部：発達と学習の心理学Ⅱ	麻生 良太
	経済学部・理工学部：教職論	清水 良彦
	経済学部・理工学部：教育課程論	清水 良彦
	経済学部・理工学部：教育方法の理論と実践	清水 良彦

3　県・市町村教育委員会との連携状況

県・市町村	内容	担当教員
大分県	大分県教育センター長期派遣研修生 中間報告会 指導助言	廣瀬 剛 麻生 良太 森下 覚 清水 良彦
	大分県教育センター長期派遣研修生 研修成果発表会 指導助言	廣瀬 剛 麻生 良太 森下 覚 清水 良彦
	大分県教育委員会と大分大学教育学部等との 連携協力推進協議会	廣瀬 剛
大分市	大分市現職教員教育等連携推進協議会 作業部会	麻生 良太 森下 覚 清水 良彦
	大分市現職教員教育等連携推進協議会 専門部会	廣瀬 剛 麻生 良太 森下 覚 清水 良彦

4　附属学校園との連携

校園名	内　　容	担当教員
附属学校園・ 学部・大学院	王子キャンパス会議	廣瀬 剛
	学部・大学院・附属学校園連携委員会	廣瀬 剛
	共同教育研究推進委員会	廣瀬 剛
	四校園協働研究推進委員会	廣瀬 剛

5　社会貢献

内容	担当教員
大分県歯科医師会 歯と口の健康図画ポスターコンクール 審査員	廣瀬 剛
大分県立芸術文化短期大学 非常勤講師	廣瀬 剛
宇佐市障がい者芸術文化活動支援事業 社会福祉法人清流会 相談支援事業所ルポーズ主催「アトリエぐぅ」造形ワークショップ講師	廣瀬 剛
おおいた障がい者芸術文化支援センター オープンアトリエ 美術ワークショップ講師	廣瀬 剛
おおいた障がい者芸術文化支援センター 調査・発掘事業（人材発掘）調査員	廣瀬 剛
OITA ものづくり展実行委員会「OITA ものづくり展」体験教室ワークショップ講師	廣瀬 剛
大分大学 STEAMLab.クリエイティブ講座ワークショップ講師	廣瀬 剛
元気のでるアート！実行委員会「2022 元気のでるアート！大分協奏曲 Von voyage!」造形ワークショップ講師	廣瀬 剛
エフエム大分番組審議委員	森下 覚

6　外部資金等導入状況

（1）科研費受給状況

研究期間	助成金名称	研究題目	研究代表者
2017 年 4 月～2023 年 3 月（6 年目）	科学研究費（基盤研究Ｃ）	共創的越境を可能にする学校インターンシップの実施体制モデルの構築	森下 覚
2021 年 4 月～2025 年 3 月（２年目）	科学研究費（若手研究）	持続可能な学習支援事業・居場所づくり事業の普及に向けたモデル構築	清水 良彦

（2）学内研究費受給状況

研究期間	研究題目	研究代表者
2022 年 4 月～2023 年 3 月	「教育実践総合センター・ニュース Edu-ta!」に基づいた附属学校園および地域の教育委員会等諸機関との研究・教育に関する連携強化プロジェクト（令和 4 年度教育学部・教職大学院短期プロジェクト）	廣瀬 剛 佐藤 努 木村 典之 御手洗 宏昭 後藤 みゆき 麻生 良太 森下 覚 清水 良彦
2022 年 4 月～2023 年 3 月	放課後学習支援活動・居場所づくり活動「きたく部」を通した地域コミュニティの発展（令和４年度教育学部・教職大学院短期プロジェクト）	清水 良彦

【Ⅵ　センター刊行物】

1　教育実践総合センター紀要

種類	2022 年度　第 40 号　掲載論文	執筆者
原著	望ましい学級担任像に関する大学生の意識 ―学級担任の予期的社会化の限界と教育言説の呪縛―	長谷川 祐介 白松 賢
原著	教員養成課程における小学校家庭科の教材研究指導の試み ―SDGs（持続可能な開発目標）を題材として―	川田 菜穂子 都甲 由紀子 財津 庸子 長野 優
原著	教育学部授業「体育史」における身体運動の歴史的位相と日本的特徴の素描 ―武術・武道及び国家主義の思想・実相と渡邊昇に着目して―	田端 真弓
原著	STEAM 教育を意識して天然染色を取り入れた総合的な学習の時間の授業実践 ―スイスの日本人学校小学部３・４年生を対象として―	都甲 由紀子 久保 祐貴
原著	アニメを活用した現代国際社会に関する授業	甘利 弘樹
原著	総合的な学習の時間の深化の試み	甘利 弘樹 小野 智博
原著	小学校社会科教材開発力育成の取り組みと課題 ―「小学校教材研究Ⅱ」の事例―	土居 晴洋 青柳 かおり 甘利 弘樹 黒川 勲 小山 拓志 鄭 敬娥
原著	１人１台端末を活用した子どものリフレクション ―子どもの内面把握の方法開発とその活用―	渡邊 和志 吉崎 静夫 明比 宏樹
原著	歌唱指導における三次元動作解析システムの可能性(2)	栗栖 由美子 阿南 雅也
資料	COVID-19 パンデミック下の大学生における食生活に関する検討 ―小規模集団を対象とした断面分析―	玉江 和義 平野 雄
資料	小規模青年期集団における COVID-19 パンデミックによる生活習慣への影響 ―R3 年実施の調査結果―	玉江 和義 平野 雄

2　Edu-ta!　センター・ニュース

「教育実践総合センター・ニュース Edu-ta!」は，本センター及び学部・大学院・附属学校園の諸活動を本学及び大分県内，全国の国立大学教育実践研究関連センター等に発信している。年に 1 度発行し，2022 年度は第 7 号（A3　8 ページ)を刊行した。

全国的には教員志望者が減少する中，大分大学教育学部では 119 名が教員採用試験を受験，103 名が合格と，合格者数，合格率ともに過去最高を更新した。今号では，教育実践総合センターがどのように教員養成支援を実施し貢献してきたのかについて，また，地域の教育委員会との連携や研究支援の実績について報告している。

Edu-ta！（第 7 号）

3　人材バンク

人材バンクは，学部・大学院研究科教員が附属学校園に貢献しうる研究領域や教育支援の内容を提供し，附属学校園の教育・研究の推進・協力を目的に，2005（平成 17）年度に試用を始めた。

2016 年度からは，学部教員だけでなく，教職大学院の教員の情報，附属学校園の教員の校内の担当，専門，研究情報等も掲載し，学部，教職大学院，附属学校園だけでなく，附属学校園間の教育・研究の推進・協力も図れるようになった。なお，人材バンクの登録状況は，次の表のとおりである。

人材バンクの登録状況

種別	登録者数（2022 年度）
学部・大学院研究科教員等	69 名
附属幼稚園教員	8 名
附属小学校教員	26 名
附属中学校教員	28 名
附属特別支援学校教員	30 名

【Ⅶ　施設活用（施設利用状況）】

利用目的	年 月 日	時間	利用室名
教育相談	随時	随時	教育相談室
令和 4 年度第 1 回王子キャンパス会議 四校園長会議	2022.04.05	13:00～16:00	多目的演習室
附属小学校と大学との算数研究会	2022.05.13	18:00～19:20	多目的演習室
令和 4 年度第 2 回王子キャンパス会議 四校園長会議	2022.05.16	09:00～12:30	多目的演習室
第 1 回四校園協働研究推進委員会	2022.05.16	16:00～17:00	多目的演習室
第 1 回教育実践総合センター運営委員会	2022.05.23	13:00～15:00	多目的演習室
教育実習校との打ち合わせ	2022.06.10	14:30～17:00	多目的演習室
令和 4 年度第 3 回王子キャンパス会議 四校園長会議	2022.06.15	09:00～12:30	多目的演習室
大学院実習指導	2022.06.16 ～2022.6.17	07:30～18:00	多目的演習室
附属小学校と大学との算数研究会	2022.06.17	18:00～19:20	多目的演習室
大学院実習指導	2022.06.23 ～2022.06.24	07:30～18:00	多目的演習室
共同教育研究推進委員会	2022.06.28	16:00～17:00	多目的演習室
大学院実習指導	2022.07.07 ～2022.07.08	07:30～18:00	多目的演習室
大学院実習指導	2022.07.14 ～2022.07.15	07:30～18:00	多目的演習室
令和 4 年度第 4 回王子キャンパス会議 四校園長会議	2022.07.19	09:00～12:30	多目的演習室
令和 4 年度新任教員 FD 昼食会場	2022.09.12	11:50～12:50	実践センター 2 階
令和 4 年度第 5 回王子キャンパス会議 四校園長会議	2022.09.20	13:30～16:30	多目的演習室
令和 4 年度新任教員 FD 昼食会場	2022.09.21	11:50～12:50	実践センター 2 階
令和 4 年度新任教員 FD における実践センターの説明等，報告会・意見交換会	2022.09.21	15:00～17:00	多目的演習室
令和 4 年度第 6 回王子キャンパス会議 四校園長会議	2022.10.19	13:30～15:00	多目的演習室
附属小学校と大学との算数研究会	2022.10.20	18:00～19:20	多目的演習室
大分大学教育学部教育実習運営協議会小学校主免実習小委員会	2022.10.31	14:00～17:30	多目的演習室

利用目的	年 月 日	時間	利用室名
シンポジウム／彫刻をさわる時間―彫刻を「つくる」「さわる」	2022.11.03	09:00～17:30	多目的演習室
令和 4 年度第 7 回王子キャンパス会議 四校園長会議	2022.11.21	09:30～11:00	多目的演習室
令和 4 年度第 8 回王子キャンパス会議 四校園長会議	2022.12.07	09:30～11:00	多目的演習室
令和 4 年度第 9 回王子キャンパス会議 四校園長会議	2023.01.16	09:30～11:00	多目的演習室
令和 4 年度第 2 回大分大学教育学部・教育学部附属学校園合同実習委員会	2023.01.23	13:30～17:00	多目的演習室
令和 4 年度第 10 回王子キャンパス会議 四校園長会議	2023.02.14	13:30～17:00	多目的演習室
附属小学校と大学との算数研究会	2023.02.14	18:00～19:20	多目的演習室
第 3 回四校園協働研究推進委員会	2023.02.24	16:00～16:45	多目的演習室
令和 4 年度第 11 回王子キャンパス会議 四校園長会議	2023.03.16	09:30～11:00	多目的演習室
附属小学校の屋外彫刻作品メンテナンス作業のための控室	2023.03.18 ～2023.03.19	10:00～16:00	多目的演習室

4　センター規程，紀要の編集・発行及び投稿に関する内規

1　大分大学教育学部附属教育実践総合センター規程

平成 28 年 4 月 1 日制定
平成 28 年教育学部規程第 12 号

（趣旨）
第 1 条　この規程は，大分大学学則（平成 16 年規則第 8 号）第 4 条第 4 項の規定により，大分大学教育学部附属教育実践総合センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

（目的）
第 2 条　センターは，教育指導及び教育臨床に関する理論的及び実践的研究を行うとともに，実践力ある教員の養成，現職教員の資質向上のための研修プログラムの開発，教育学部及び附属学校園との連携の推進並びに地域の教育委員会との連携の推進を図ることを目的とする。

（業務）
第 3 条　センターは，次の各号に掲げる業務を行う。
(1)　教育実践に関する理論的及び実践的研究
(2)　教育相談及び教育臨床に関する研究及び臨床研修の指導
(3)　教育実習の指導及び管理
(4)　学生の教育実践に対する補完プログラム及び発展プログラムの提供
(5)　学習支援ボランティアの指導体制の充実
(6)　教師育成サポート推進室に係る業務
(7)　現職教員の研修プログラムの開発
(8)　教育学部と附属学校園の共同研究の推進及び調整
(9)　地域の教育委員会との連携推進
(10)　その他センターの目的を達成するために必要な事項

（職員）
第 4 条　センターに，次の各号に掲げる職員を置く。
(1)　センター長
(2)　主担当の教員
(3)　その他必要な職員

（センター長）
第 5 条　センター長は，センターの業務を掌理する。
2　センター長の選考は，大分大学教育学部役職者選考に関する規程（平成 28 年教育学部規第 9 号）に基づき行う。

3　センター長の任期は 2 年とする。ただし，再任を妨げない。

4　欠員が生じた場合の後任のセンター長の任期は，前任者の残任期間とする。

（主担当の教員）
第 6 条　主担当の教員は，教育研究に従事するとともにセンターの業務を行う。

（運営委員会）
第 7 条　センターの円滑な運営を図るため，センターに大分大学教育学部附属教育実践総合センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。
2　運営委員会に関し必要な事項は，別に定める。

（客員研究員）
第 8 条　センターに，客員研究員を置くことができる。
2　客員研究員は，センターの事業に関する研究に従事する。
3　客員研究員は，運営委員会の推薦に基づき，教育学部長が委嘱する。
4　客員研究員の任期は，1 年又は 6 月とする。
5　客員研究員に関し必要な事項は，別に定める。

（事務）
第 9 条　センターの事務は，教育学部事務部において処理する。

（雑則）
第 10 条　この規程に定めるもののほか，センターに関し必要な事項は，教育学部長が別に定める。

附　則
この規程は，平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 28 年教育学部規程第 23 号）
この規程は，平成 29 年 1 月 1 日から施行する。

2　紀要の編集・発行及び投稿に関する内規

（趣　旨）

第 1 条　この内規は，大分大学教育学部附属教育実践総合センター（以下「センター」とする）規程第 11 条に基づき，センターの研究紀要「教育実践総合センター紀要（別称：大分大学教育学部附属教育実践総合センター紀要）」（以下「紀要」とする）の編集・発行及び投稿に関し，必要な事項を定めるものとする。

（収録内容）

第 2 条　紀要は，未発表の発達教育臨床（教育臨床心理・発達障害臨床），教育実践開発（教育実践研究・教育情報システム）に関する原著論文，資料，寄稿，及び客員研究員研究報告を掲載するものとする。

2　原著論文は発達教育臨床，教育実践開発の発展に顕著な貢献が認められると判断された学術論文を示す。

3　資料は実践事例，調査，実験，理論等に関するレポートを示す。

4　寄稿は大分大学教育学部附属教育実践総合センター紀要編集委員会（以下「編集委員会」とする）の依頼に基づき掲載する論文や講演録等を示す。

5　客員研究員研究報告はセンターの客員研究員が長期研修で取り組んだ実践事例，調査，実験，理論等に関するレポートを示す。

（発行）

第 3 条　紀要は，原則として年 1 回（3 月）発行する。

（編集委員会）

第 4 条　紀要の編集は，編集委員会が担当し，その事務はセンターの主担当教員が行う。

（審議事項）

第 5 条　編集委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。

一　投稿原稿の採否に関すること。

二　その他紀要の編集・発行及び投稿に関すること。

（組織）

第 6 条　編集委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。

一　センター長

二　センターの主担当教員

三　センター運営委員から選出された学部教員 2 人及び附属教員 2 人

2　前項第 3 号の委員の任期は，学部教員 1 年，附属教員 2 年とする。ただし，再任を妨げない。

3　補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

（委員長）

第 7 条　編集委員会に委員長を置き，センター長をもって充てる。

2　委員長は，編集委員会を招集し，その議長となる。

3　委員長に事故があるときは，あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

（会議）

第 8 条　編集委員会は，委員の過半数の出席がなければ，議事を開き，議決することができない。

2　編集委員会の議事は，出席した委員の過半数をもって決し，可否同数のときには，議長の決するところによる。

（委員以外の者の出席）

第 9 条　編集委員会が必要と認めるときは，委員以外の者を出席させることができる。

（投稿資格）

第 10 条　投稿者は，投稿日において次の各号の一に該当する者とする。

一　単著の場合は，教育学部及び大学院教育学研究科の主担当教員または附属校園の教員であること。

二　共著の場合は，筆頭著者もしくは連名著者が前号に該当していること。

三　その他，センター長が特に許可した者であること。

2　単著の著者及び共著における筆頭著者と投稿者は，投稿日において別に定める研究倫理教育を受講していること。

（編数及びページ数）

第 11 条　投稿できる編数は，単著の場合，1 人 2 編までとする。ただし，第 1 報目と第 2 報目を同時に投稿することはできない。

2　ページ数は，日本文（横書き・縦書き）・欧文ともに，和文抄録（日本文の場合のみ）・英文アブストラクト・図表等を含め，原則として，完成原稿 16 ページを限度とする。

（原稿の提出）

第 12 条　原稿は，次の各号をすべて満たしているものとする。

一　ワープロソフトを使用し，書式に従って作成したものであること。

二　別に定める紀要執筆要項に基づいていること。

三　図表等も含めた原稿を，2 部印刷していること。

2　提出の際は，印刷した原稿（2 部），投稿カード，誓約書をセンターに学内便で提出するものとする。同時に，原稿のデータを電子メールでセンターまで送るものとする。

3　原稿提出の締切は，毎年度 11 月 30 日とする。ただし，締切日が土曜日，日曜日等の休日にあたるときは，当該休日後の最初の日とする。

（原稿の修正）

第 13 条　投稿後の原稿の修正は，次の各号の一に該当するとき以外は認めない。ただし，いずれの場合にあっても，著者が確認して修正するものとする。

一　閲読の結果，閲読者から修正を求められたとき。

二　その他編集委員会が必要と認めたとき。

（校正）
第 14 条　校正は，原則として著者が再校まで行うものとする。ただし，校正時の原文の変更は認めない。

（論文の公開）
第 15 条　掲載論文等については，大分大学がデータベースとして構築し，インターネットを介して学内外に公表する。

（著作権）
第 16 条　掲載された論文等の著作権は，センターに帰属する。なお，著者はセンターに帰属する著作物を自ら利用することができる。

附　則
この内規は，平成 13 年 10 月 19 日から施行する。

附　則
この内規は，平成 22 年 6 月 21 日から施行する。

附　則
この内規は，平成 23 年 2 月 16 日から施行する。

附　則
この内規は，平成 24 年 5 月 23 日から施行する。

附　則
この内規は，平成 28 年 5 月 25 日から施行する。

附　則
この内規は，令和 2 年 5 月 25 日から施行する。

附　則
この内規は，令和 3 年 5 月 28 日から施行する。

附　則
この内規は，令和 5 年 6 月 20 日から施行する。

2022（令和 4）年度
教育実践総合センター運営委員会委員

廣瀬 剛（センター長）	三次 徳二	齊藤 友子	市原 靖士
佐藤 努	木村 典之	御手洗 宏昭	後藤 みゆき
麻生 良太	森下 覚	清水 良彦	

教育実践総合センターレポート第43号

2023（令和5）年7月
編集発行　大分大学教育学部附属教育実践総合センター

代表者　廣瀬 剛

〒870-0819　大分市王子新町1番1号
Tel　097-543-4933
Fax　097-543-4936
http://www.ed.oita-u.ac.jp/shisetsu/center/

表紙デザイン：廣瀬 剛